

梅毒抗体検査について

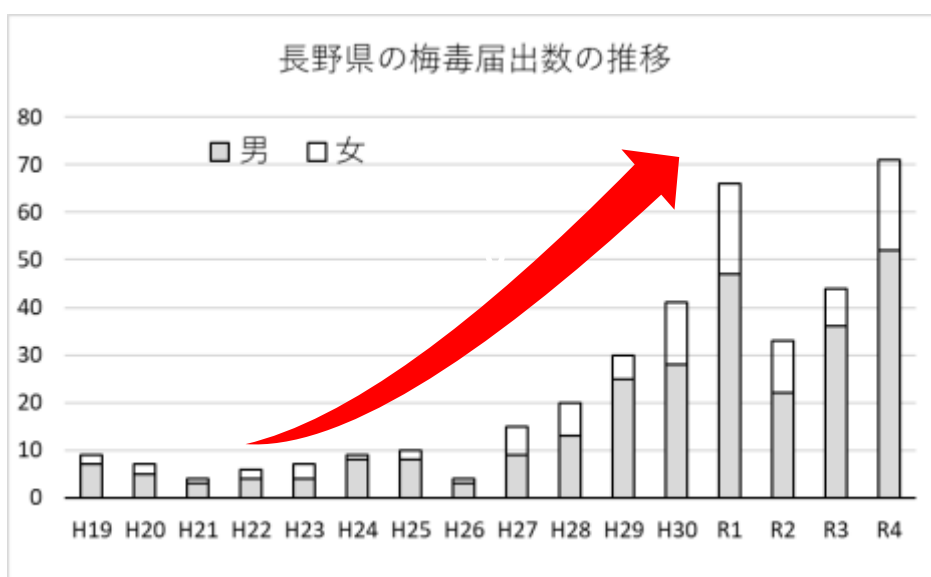
— 翌日にはご報告可能です —

梅毒届出数の推移

近年、梅毒感染者数の増加が報告されています。男性では20歳代以上全般、女性では20歳代の増加が突出しており、母子感染による先天梅毒のリスクも増加しています。

長野県でも同様に届け出数が平成27年より急増しています。

当センターで行っている梅毒抗体検査についてご案内いたします。



検査法とその特徴

梅毒の抗体検査には、脂質抗原に対する抗体を検出する梅毒血清反応（STS）検査と TP（*Treponema pallidum*）抗原に対する抗体を検出する梅毒トレポネーマ抗体検査の2種類があり、当センターではそれぞれ梅毒 RPR、梅毒 TP 抗体が該当します。

2種類の検査にはそれぞれ以下のような特徴があります。

	梅毒血清反応（STS）検査 RPR	梅毒トレポネーマ抗体検査 TP 抗体
特徴	<ul style="list-style-type: none">・感染後3～4週で陽性となる・生物学的偽陽性反応（BFP）あり・治療効果の判定に有用・治療により陰性化する	<ul style="list-style-type: none">・STSより1～2週遅れて陽性となる・梅毒に対し特異性が高い（BFPはない）・梅毒の診断に有用・治療後も陽性が持続する

梅毒の診断にはこの2種類の検査法を組み合わせる行うことが望ましいとされています。両法で検査した場合の結果の解釈を裏面に示します。なお、梅毒は5類感染症のため届け出が必要です。

（裏面あり）

2項目での結果解釈

RPR	TP 抗体	結果の解釈
(+)	(+)	梅毒感染
(+)	(-)	感染の初期あるいは生物学的偽陽性反応 (必要に応じて FTA-ABS を実施し確認)
(-)	(+)	梅毒の既往・治癒後、ごくまれに TP 抗体の非特異反応 ※ 梅毒感染初期
(-)	(-)	臨床症状がなければ非梅毒 感染機会のあった場合は 2~4 週後に再検査を実施する

※ 近年、RPR 陰性で TP 抗体のみ陽性の早期梅毒の報告が増加しており、梅毒の感染初期の可能性も否定できません。

検査項目概要

当センターでの梅毒抗体検査については以下のとおりです。

検査項目名	梅毒 RPR		梅毒 TP 抗体		FTA-ABS ※2
	定性	定量	定性	定量 ※1	
検査方法	凝集法	凝集法	ラテックス 凝集比濁法	PA 法	FA 法
検体量	血清 0.2mL	血清 0.2mL	血清 0.2mL	血清 0.3mL	血清 0.3mL
所要日数	1 日		1 日	2~4 日	2~4 日
検査実施料	15 点	34 点	32 点	53 点	134 点

※1 ※2 とも外注検査となります。

※2 確認試験として用いられる蛍光抗体法による検査です。

ご不明な点等ございましたら、下記担当者までお問い合わせください。